

令和7年度 経営協議会学外委員からの主な意見と本学の対応状況

○第1回（令和7年6月24日（火）開催）

【その他】

学外委員からの意見

- ・ 科研費等の基盤的な研究も重要であるが、事業化（スタートアップ）関連の状況について、会議資料で示すなど情報を出していくと、学内における意識の醸成にも繋がると思われる。

本学の対応状況

- ・ 第4期中期計画の中でも、「教職員・学生による本学発起案件数を増加させるため、学内の啓発活動の推進、起業希望者支援を充実させる。」事を中期目標を達成するための方策として定め、本学でもスタートアップ関連の取り組みを各種進めている。
- ・ 具体的には、学生向けのアントレプレナーシップに関する講義として、教養教育の講義に「ビジネス思考」等を設置する等実施している。また学内の研究者や学生向けのビジネスプランコンテストを開催しており、ビジネスプランコンテストへの参加者を中心に、学術研究・産学連携本部の専任教授やURAが事業化に向けてサポートし、起業までの資金についてはTech Startup 北陸（TeSH）へ応募しGAPファンドの支援を受けて起業化に繋げる仕組みを構築している。

（参考）令和7年の採択状況

R7年度 TeSH GAP ファンドプログラム『ステップ1』採択者 500万円×1年

歌 大介 准教授 「低出力レーザー治療器による新しい在宅治療ビジネスの実現」

R7年度 TeSH GAP ファンドプログラム『ステップ2』採択者 2,000万円×3年

山本 誠士 准教授 「小児慢性特定疾病「嚢胞性リンパ管腫」の治療抗体開発を推進する創業スタートアップの設立」（事業化推進機関：三菱UFJキャピタル株式会社）

- ・ 「国立大学法人富山大学における大学発ベンチャーの認定に関する規則」を令和2年に定め、富山大学発ベンチャーを支援する仕組みを構築している。現在の認定状況は1件（LABTECHS 株式会社）となっているが、現在中小企業庁のGo-Techや、富山県のT-Startupの支援を受ける等、取り組みを進めている。
- ・ この他、富山大学内のスタートアップを支援するためのファンドの設置等を検討しているところであり、経営協議会でもご審議いただく予定としている。
- ・ なお、研究成果の事業化（社会実装）については、様々な取り組みを進めており、多くの成果（製品化等）が出てきています。
- ・ これらの事業化（スタートアップ）関連の状況については、随時ご報告させていただく事とさせていただきます。